

## ① 政府・行政に関して

◇ 税制、子育て支援、社会保障（セーフティネット）などの社会・福祉制度について書いた人：391人

・正社員として働くことより社会保障が手薄なので、充実されるとよりフリーランスとしての働き方が進むと思う。

・働く側としては社会制度が充実されていると嬉しいです。将来の事を考えて不安で一步を踏み出せない人もいます。安定するまでは仕事を取れるのかという不安や、病気などの場合のサポート面など。保障の充実や知識を得られる場があると良いと思います。

・年金や健康保険などが、フリーランスでも不利にならないような仕組みを作ることも大切。

・誰もが選択できる働き方として、税金（納税）、年金制度、健康保険制度など社会保障制度の見直しが必要だと思います。

・保育園の優先順位が低いことの見直し

・フリーランスへの新たな年金・健康保険制度

・雇われとフリーの最大のギャップがいわゆる「福利厚生」であることは散々指摘されていて、育児介護病気などで働けなくなったときのリスクヘッジ制度が求められているのは事実です。

・国保・年金は高い。収入が安定しないのに前年度収入で算出されるため収入が合った翌年はキツイ。税金まわりも同。

・企業に勤めること前提の制度設計（年金、健保など）に無理が来ているのが現状。フリーランスのみならず、派遣社員、契約社員など正社員以外の法整備を進め、雇用の流動性を上げながらセーフティネットを広げることが、結果的に「新しい働き方」を支えるものとなるのではないかと。

・正社員至上主義の感覚をなくし、どの働き方を選んでも格差のない保証を受けられるようにする必要がある。

・社会保険料や年金に対しての国も工夫が必要になると感じる。超高齢者社会の中で、今後も高齢のフリーランスも増えると考えられるのでそのあたりの対応も考えていただければと思う。



・大きく稼ぐか小遣い程度か、バリバリ働くかプライベート優先でのんびりやるかなど、働き方が多様なのがフリーランスで、個人の能力や志向しだいの部分が大きいと思うが、一番会社員との格差、不安を感じるのが年金、保険など福祉の部分です。

・フリーランスで働くことに対しての社会的な理解と保障が必要だと思います。

・フリーランスを選んだ人が年齢に関わらず学び、安心して将来設計が出来るよう、余裕をもって年金を支払えること、健康保険への加入がしやすいこと、年齢で求人を見切らないことなど、多様な生き方を認める制度構築を切に望みます。

・雇用の流動性を高めること

・正社員の解雇規制の撤廃

## ② 社会に対して

◇ 世の中の意識、教育、社会的地位の問題について書いた人：354人

・日本はまだまだ大企業を中心に社会は形成されていて、大企業に勤務し、出世した人を「立派な社会人」とする風潮が根強く、どんなに個人の能力が高くても”入れ物”がないことがデメリットとなっている

・社会の側にフリーランスという働き方を受け入れるだけの土壌がないのが問題だと思う。

・フリーランスという働き方に対する偏見や、地位の低さを解消する必要があると思います。働く個人は自分自身でキャリアを築き、長くキャリアを構築していく覚悟が必要です。

・企業や社会が個人事業主や非正規雇用の人材に対する偏見をなくすことや、ダブルワークの人への寛容な環境などが必要だと思っています。

・働き方として公務員が1番、企業に勤めることが2番という地域では、平日自由な時間に活動することも難しい。(世間的に「え？なんでこんな時間に歩いているの？」という視線)

・社会全体のキャリアへの考え方。会社で働いて得られるキャリア、フリーランスとして働いて得られるキャリアを考える必要性。

・フリーランスはフリーターでもアマチュアでもない、経験を積み、専門性を持つプロであるという社会の認識の定着が必要と考えています。

- ・日本社会、日本企業のフリーランサーに対するイメージは「専門性の活用」という認識がまだ乏しく、社会的信用も低い
- ・今の日本では、サラリーマンという働き方が当たり前で、それ以外の選択肢がないという認識がある。
- ・お金を稼ぐということの意識を変える必要がある。今のサラリーマン的な時間を対価にお金を稼ぐ、ではなく、社会に価値を生み出していくということでお金を稼ぐという意識に。
- ・個人の可能性や個性を受け入れる感受性が世の中の人たちには必要だと思う
- ・「働く場所」でなく「質・生産性」で評価してもらえる働き方の多様性が進むことが、今後労働人口が減っていく日本に必要なことだと思う。
- ・旧来の働き方からの脱出組が、身近にもっと登場してくるとで、古い人々（古い大人や親世代）の意識が少しずつでも変わってくるのを待つ必要がある
- ・企業の中では出来る仕事の幅があるので実力を発揮できない人や、女性の社会進出がクローズアップされるが家庭と仕事の両立が難しく自由に働けない人などがもっと自由に働ける世の中であってほしいと思います。
- ・銀行なども、フリーランスだと信用がないと言ってお金を貸す気がない
- ・会社というバックアップがなければ、ローンや賃貸契約を結ぶのも簡単ではない。
- ・生活上のさまざまな契約において個人事業主は圧倒的不利
- ・フリーランスになって初めて、社会的な地位のなさを痛感しました。やはり個人個人のお仕事は可能であっても、大きなお仕事（対企業の仕事など）は、なかなか壁が厚いと感じています。

#### ◇ 環境整備に関する意見を書いた人：198人

- ・業務のスキル以外に、契約に関すること、金銭（相場感も含め）に関することなどの知識が身につけられる環境が必要
- ・フリーランスであるという証明のようなものを、一定の基準を超えた能力・実績を持つ人材に対して認定し、そういった人材と企業との間の契約フォーマットのようなものを定義してはどうか。



- ・ 経歴・スキルなどから行政による何らかの段階的なライセンス発行制度の検討を望む。
- ・ 法人でなくても信用度があがる地域の認定資格など公的な制度があると良い
- ・ 地域コミュニティとの積極的つながりと、それを可能にする行政のサポート
- ・ 労働の意味や意識を考えるきっかけやフリーランスの人と接する機会が少ないのもっと 場の創出が必要だと思います。
- ・ フリーランス同士のネットワークを構築し、仕事を融通し合ったり、万が一仕事ができなくなったときにカバーし合ったりする
- ・ 託児付きコワーキングスペースを各地に設置する
- ・ スキルをアップさせつつ、経験を積める環境があると助かります。
- ・ フリーランスと正社員を行き来できるような社会構造の実現
- ・ よりフリーランスを雇用する各企業の取り組み、週 2・3 を主とした働き方の推進(行政レベルでも良いと思います)
- ・ フリーは合わないと思ったときに、また会社員に戻るなり、別の働き方を探すなりの手段が執りやすい環境を整えること
- ・ 個人のスキルアップができる場所は必要
- ・ 個人の能力に対する正当な評価・報酬
- ・ 個人や零細企業が他の個人・法人と取引する際の与信、リスク管理を効率化する仕組みが必要ではないか。
- ・ 個人と企業をつなぐネットワーク・システム
- ・ 身元や品格を保証してもらえる、また相互交流ができる団体を設立してほしい。また、公的に希望者へのスキル習得・アップへの機会や援助を増やしてほしい。
- ・ 何を大事にするか、その代わりに何を我慢するか、ではないかと。ただ、その人の価値観や考え方が変わったときに、フリーランスから会社員へ、またその逆へといった転職のしやすさについては改善の余



地がありそうです。

- ・フリーランス向けのキャリアコンサルティングの充実
- ・サラリーマンとしての働き方は会社に依存しすぎる部分があるので、フリーランスになるためのステップとして徐々に自立していく中間的な仕組み（もしくは組織）が必要だと思う
- ・資格などのスキル向上に繋がる教育支援
- ・、企業側とのビジネスマッチング会、フリーランスとしての心構えなどの勉強会が増えるとモチベーションが上がると思います。
- ・始めようとする人が気軽に参加できるセミナー等が、都心だけでなく地方でも頻繁に開催され、相談する場所ができるといい
- ・直接仕事に繋がるような交流が持てる場所や機会
- ・法人を起業した場合は助成金などがありますが、個人事業主にはほとんど助成金は支給されません。
- ・個人のスキルアップ（自己投資）に対する経済的支援
- ・代理店を立てず、企業側とフリーランス側がもっと密に出会えるプラットフォームがあればいいと思います。

### ③ 企業に関して

◇ フリーランスに対する扱いや意識の問題（報酬問題含む）を書いた人：257人

- ・プロフェッショナルなフリーランスの価値がわからない(単なる人手としてバイト的なイメージを持っている)
- ・発注者側が、専門的な技能、技術を持った人達の価値を認めて、大企業と個人という関係であっても一緒に仕事をするパートナーとして、内容に見合った報酬、条件を提示するようにならないといけないのではないかと思います。
- ・企業に属していないため対応がぞんざいな気がします
- ・企業側においては、フリーランスの働き方を縛る場合もあり、理解を得られづらいこともあるため、正



社員との違いを理解するよう求めたい。

- ・フリーランスなのでどうしても下に見られアマチュア的にみられることが多くなかなか対等に見られることは少なかった
- ・フリーランス＝社員よりも安価に仕事を振れて、なおかつ残業や休日出勤を気にしなくていい発注先、という固定概念を払拭できればと思っています。
- ・企業側のフリーランスに対するイメージの改善は切実。フリーランスだから、時間の自由が効く、無理が利くという点での発注依頼が多い
- ・フリーランスの労働力を「使う」側の企業の意識も、変わる必要があると思います。時間の拘束などで自社社員と同列のものを求めたり、逆に、単に安いから、というだけでフリーランスを活用し、個々の能力や特性を見る力がないところが多いように思います。
- ・企業がフリーランスとどのようにかかわっていくのかを、考える必要があると思います。現在のところ、安価な雇用調整としか考えていないように見受けられることがあり、企業とフリーランスが対等になっていないように感じます。
- ・、企業側の「フリーランスへ仕事を頼む時のマナー」に疑問を感じる事もあります。「最後に作業分を換算してお支払いします」と言われたのに、納品後何時間かかったか聞かれず一方的に安い金額を提示してきたり、便利屋のように感じてなんでも仕事を頼んでくる事もあり、フリーランスがどういう実態なのか、企業側の理解が薄いなどと思う事も多いです。
- ・外注費用を安く、安くという姿勢では、品質の高いフリーランスの層が育たない。企業や公共団体などの意識を変える必要があると思います。
- ・発注者側の意識改革と報酬等に関する法整備（クラウドソーシング等で見られる異常な低報酬での発注や消費税の支払い拒否問題など）
- ・企業に向けたフリーランス業態に関する知識拡充の研修（コストを削減するために、企業からフリーランスへの発注は増えている傾向にあるが、一方で企業側がフリーランスの特性を知らなすぎるため、業務量やリスクヘッジの面でフリーランス側に負担が大きい印象は否めない）
- ・雇用契約に捉われることなく柔軟にニーズに合わせて外部の有能な人材を活用できるという点、フリーランスは企業にとってもメリットがあります。それから、企業の中にとどうしてもその企業の文

化に染まってしまうところがありますので、外部から違った視点で意見を述べてくれる人材は貴重です。まずはこういうメリットを企業側に認識・実感してもらうことが必要

・企業側で手が足りていない仕事や不足しているスキルをフリーに任せてみよう、といった意識や発想が定着するといいなと思っています。

・企業には「単価ではなく”この人だから、この人のスキルが必要だから依頼する”」という考えを持ってほしい。

#### ◇ 企業の制度や組織のあり方などについて書いた人：82人

・企業側のより柔軟な受入れ体制（パートタイムやテレワークなど柔軟な働き方の許容、Web会議やチャット等のITサービスの利用向上）

・フリーランスとの取引に関する企業（発注主）リテラシーの向上

・企業の中に、業務範囲や成果物、責任範囲などを明確化した上で仕事を発注する習慣がないことが多く、結局あいまいなまま進んでしまうことが多い

・ジョブディスクリプションに基づいた雇用契約と賃金体系

・企業側の時間を重視した給与体系から成果を重視した給与体系への変更によりパラレルワークを可能とすること

・サラリーマン専業がサービス残業など止めて、みんなが複業を始めればフリーランスの仕事に対する見方も変わり、もっと個人が働きやすい社会が実現できると思います。

・サラリーマン時代から副業ベースで稼ぐ力をつけられる環境が整って欲しい。フリーランスの働き方は自分の責任ですべてを仕切ることでビジネス能力の向上に有効だと感じる

・副業を認めさせて、独立心を持たせる

・企業が社員や非正規雇用などにこだわらず、人材を適材適所で効率よく回すことで多様な働き方をする人材が流通するようになる。

・企業側がフリーランスを使いこなせるキャパシティや能力が必要だと思う。

- ・求める企業からのスキル定義の明確化

- ・フリーでやりたいと思った人が行動できる環境。安心感。正社員で副業から始める場合もありだと思うので、正社員の働き方や時間を見直せばフリーでやりたい人も増えると思う。

- ・私自身、キャリアの再構築のために、43歳で大学院博士課程に入学して勉強をし直しています。課題解決を行える、自分の言葉を持つ人間になりたいと思って勉強していますが、年齢の壁、学業と仕事の両立の壁に苦しんでいます。学業を優先しようとする、それを認めてくれる職場が少なく、わずかな収入で生活しなければならない。

#### ④ フリーランスに求められる能力、意識についての意見

- ◇ プロとしてのスキルの必要性について書いた人：183人

- ◇ プロとしての意識について書いた人：128人

- ◇ （意識とスキルの両方について書いた人：35人）

- ・フリーランスという形態が誰にでも、どんな職種にでも適したものではないことを理解すべきだと思う。営業から経理、経営から実務まで全て自分でできるだけの力量、そして何よりも業務面での実力が無い人は全く適さない、厳しい形態である。

- ・TPOに応じた身なり、締切りを守ること、スケジュール管理をしっかりすること、ミスをしないよう細心の注意をはらうこと。フリーランスだからこそ、より自己管理大切。

- ・企業に認めてもらうためには、個々のスキルアップ、仕事を最後まできっちりこなす責任能力の向上、コミュニケーション能力が不可欠である。

- ・働く人一人ひとりが、高いレベルでなくても良いので、基本的なビジネスパーソンに求められる知識を身に着けること。（営業活動、マーケティングの知識、労働関連法令の知識、契約関連の法律の知識、簿記3級程度の簡単な経理の知識。社内に通用するスキルだけで満足しない）

- ・「仕事」に対する意識を変えること（会社にしがみつけば生活が安定するという意識を捨てること、自分の能力、スキルを客観的に把握し出来ることに自信を持つこと、「価値」や「生産性」という観点で仕事を考えること）

- ・今までのようにひとつの会社でスキルを磨くよりも多様な人間性や自由な時間を持つことで個人のスキルを上げることが必要だと思う。





- ・フリーランスになってみて生産性はずば抜けてあがったと思います。各種ツールを駆使してミーティングは必要最低限、通勤時間は 0 分ですし、自分に使える時間も増えました。これがちゃんとできるかどうかは個人のスキル次第だと思います
- ・フリーランス側が自分のスキルを高める努力も必要
- ・フリーランスの場合、価格を叩かれる場合が非常に多く、金額交渉スキルが無いと、自滅する可能性が高い。
- ・フリーランス自身が法律や国の制度などの知識を身につけ、自分を守れるようにならなければいけない。
- ・フリーの本当の醍醐味は自力で生きていく楽しさや辛さを味わえることだと思います。

#### ⑤ “フリーランス”に関する意見、フリーランスに関する情報発信や協会に関する意見

##### ◇ フリーランスの間のレベル差について書いた人：39人

- ・片手間でやる週末副業（アフィリエイトブログなど）と、高い専門性をもつフリーランス（翻訳、書籍執筆）が同等で議論されているように感じている。
- ・スキル・経験値・安心感を含めたフリーランサーの質の安定化が大前提かなと思います。
- ・フリーランスの中には、使命感を持って仕事に取り組むプロもいれば、報酬だけが目的のお小遣い稼ぎ感覚の人もある。スキルも仕事に対する意識も人によって大きな差がある
- ・個人的には「フリーランスに向かない人」も確実にいる（というか大多数はそう）と思っている。誰も彼もフリーランスになればいい、とは思えませんし、また、なるべきではないと思っています。
- ・フリーランスに限りませんが、どんな職種、職業でも人によって合う/合わないというものがあります。特にフリーは「事業主」なので、会社の後ろ盾がない中すべて個人で動かなければならず、向いていない人もいるでしょう。

##### ◇ フリーランス同士の協業、ネットワークなどの互助について書いた人：84人



- ・身元や品格を保証してもらえ、また相互交流ができる団体を設立してほしい
- ・ひとつのプロジェクトに対して各ジャンルのフリーランスが集結し、プロジェクトを遂行できるような仕組み作りが出来上がれば、フリーランスの地位は向上するのではないか
- ・フリーランスとして働いている方々とのネットワークは、何より重要だと感じます。
- ・他業種の人々と常に相談したり（雑談含む）する場所。
- ・私が一番必要だと思うのは同じようにフリーランスで働いている人たちとであう場
- ・同業のフリーランサーによる業種組合など、仕事と報酬を守るクラフトユニオンの必要性。

#### ◇ 情報発信や事例作りについて書いた人：205人

- ・子育て介護などライフチェンジする人の選択肢として「フリーランス」という働き方が知られていくべきだと思う。
- ・フリーランスが、育児や介護と両立しやすいこと。職種によっては、どこでも仕事ができることを、広く認識されるといい。
- ・どのような働き方があるか、多様な働き方があることをメディアなどで発信すること
- ・どのようなケースでフリーランスという働き方が活きるか、フリーランスであるとメリットが大きい状況や、向き・不向きを知ってもらうこと
- ・フリーランスに関して誇張や煽りが極力少ない正確な情報提供が必要かと思います。
- ・働き方のバリエーションはたくさんあるし、そこまで難しくないんだ、ということ、もしくは一社に勤め続けようとするもののリスクや大変さをもっと広めていけたらいい
- ・フリーランスは「新しい働き方」ではないですし、特殊な働き方でもなく、あくまで働き方の選択肢のひとつです。特殊なスキルをもったアーティストみたいな方ばかりを取り上げるのではなく、一般的な職業でフリーランスとして働いている方や経験者を多く継続的に取り上げて地道に発信していくことで、社会的な地位向上や企業側からのイメージなど変えることに繋がると思います。
- ・フリーランス（個人事業主）だけでなく、認知度が上がりはじめている副業や、非正規雇用の掛け持ち



も、人によっては理想に近い働き方でありうると考えています。フリーランスもあくまで選択肢の1つとして認識されていれば、良いのではないのでしょうか。

・特に女性は、フリーランスというと、バリバリ働く起業家でないとできないイメージが強かったのですが、実際自分で始めてみて、そこまでの経営者視点やスキルがなくても、企業のサポート的な視点での仕事がたくさんあることがわかりました。

その点をもっと世の中に周知されれば、フリーランスを始めるハードルが下がるのではないのでしょうか。